

## 第21回国立市文化芸術推進会議

1. 日 時 令和7年9月3日（水）19:00～20:45
2. 場 所 国立市役所 3階 第4会議室
3. 出 席 者 (委 員) 宇治議長、池田委員、森口委員、門倉委員、砂連尾委員、長島委員、佐藤委員、仁平委員、間瀬委員、高橋委員  
(欠席委員) なし  
(事務局) 井田生涯学習課長  
楠本社会教育・文化芸術係長、関社会教育・文化芸術係主事
4. 傍 聴 者 0名
5. 議 事
  - (1) 開 会
  - (2) 文化芸術情報の一元的な発信について
  - (3) その他
  - (4) 事務局からの連絡事項
  - (5) 閉 会
6. 配布資料 資料21-1 一元的情報発信のしくみ概観（案）  
資料21-2 文化芸術情報の一元的な発信に向けた分科会概要（案）

### 7. 主な内容

#### (1) 開会

- 事務局より、本日の配布資料の確認について説明を行った。
- 事務局より、オンライン参加に係るタブレット端末の操作について説明を行った。

#### (2) 文化芸術情報の一元的な発信について

【宇治議長】 それでは、早速ではございますが、議事を進めてまいりたいと思います。

まず、事務局から本日の会議の進め方について説明をお願いいたします。

【事務局】 本日の会議でございますけれども、次第の2といたしまして、前回会議におきまして議題として進めるということとなりました文化芸術情報の一元的な発信について御議論いただければというふうに考えてございます。

まず、流れでございますが、文化芸術情報の一元的な発信の仕組みの概要につきまして間瀬委員のほうから御説明をいただきまして、委員の皆様からそれに関する御意見等をいただければと考えております。その上で、こちらも前回会議におきまして設置することとなりました分科会につきまして、こちら、事務局から概要案を基に御説明をさせていただいた上で御意見をまた賜りまして、できれば本日、分科会のメンバー、どなたが分科会のメンバーになっていただくかというところまでお決めいただければと考えております。

【宇治議長】 それでは、前回会議の際に、今後、議論を進めることとなった文化芸術情報の一元的な発信について、まずは概要案を間瀬委員より御説明いただければと思います。

【間瀬委員】 間瀬です。よろしくお願ひいたします。

お手元の資料で、右上に資料21-1とある一元的情報発信のしくみ概観（案）というものと、（参考）立川ビルボードトップページというのが左上に書かれた資料をご覧ください。先にこの立川ビルボード、参考というほうを先に見ていただこうかと思います。

それで、今回のテーマである文化芸術情報の一元的な発信、これは手段が2つあります、これは前回もお話ししたんですけども、一つは国立市の市内でどんなアートや文化のイベントがあつたりするかとかを発信するようなポータルサイト、まとめサイトです。これは、そこを閲覧すれば市内の様々なアートや文化の情報が一覧できるというものです。現在は、ポータルサイトだけの発信では弱くて、SNSにもポータルサイトで発信しているような情報の見だしなどを送っていくと。SNS上で見て、クリックするとポータルサイトの記事に詳しく飛べるというような、そういう仕組みというものをやっていきましょうという施策が文化芸術情報の一元的な発信になります。

今申し上げたポータルサイトとSNSのうち、今、国立市では文化芸術のポータルサイトがない状況ですので、これらをつくっていこうというお話なのですが、では一体どんなものなのか具体的なイメージがないと想像しにくい方もいらっしゃるかと思います。そこで、まさにお隣の立川市に立川ビルボードという名前の文化芸術情報をまとめたポータルサイトがございました。非常にこれが分かりやすく、イメージしやすいと思ってお持ちしたものです。

1ページ目、2ページ目がトップページ、ポータルサイトにアクセスすると最初に見られるトップページになります。そして、3ページ目が、上に「市民ライター募集」と書いてあるんですけれども、立川ビルボード、このサイトの記事は基本的に市民の方がライターとなって取材に行き、記事を作成し、このポータルサイトに記事を登録しているという仕組みになっていますよ、そのための市民ライターを募集していますよというところのページになります。

最後めくっていただくと、「立川文化芸術のまちづくり協議会とは？」という、このポータルサイトを含め、立川市の文化芸術のまちづくりをサポートする会議体、協議会があるということで、このポータルサイトの運営をしているところでもあります協議会の説明となっております。

これが、この推進会議やアーツカウンシルといったもののどちらに当てはまるのかというのは、詳しいことは分からぬんですが、この推進会議やアーツカウンシルのようなものということは一旦は認識いただければと思います。そういうものがちゃんと組織化されていて、市民ライターを運用して、この立川ビルボードというアート・アンド・カルチャーサイト、文化芸術情報のポータルサイトを運営しているということになります。

トップページ、最初のページを見ていただきますと、英語になっていて若干分かりづらいと思いますけれども、news、お知らせ情報、最新情報、その次はeventと書いてあります。今、カテゴリーを読み上げています。イベント情報ですね。アートイベントなどの情報、お祭りとか音楽イベントとか様々、演劇の情報とかも載っています。その下にinterviewというのがありまして、これは人に焦点を当てたインタビュー記事で、reportというのは、終わったことだったり、これはいろいろ当てはまるものかなと思います。

その次、めくっていただくと、一番上にartistsと書いてある。要は芸術家、アーティストの方を取り上げた記事。その下、gallery&cafeということで、ギャラリーベースですけど、そういう立川でアートを楽しめる場所のカテゴリーの記事が書かれている。下がteachikawa historyということで、町のこと、歴史も含めた地域情報の発信をしているものかなと思います。

さらに下にFacebookやXがあるとおり、ポータルサイトだけにとどまらず、ここのポータルサイトに、見てもらうようにSNSを活用しているという仕組みになっています。国立版の文化芸術のポータルサイトをどうするかということとは別に、お隣でこういう形で運営、実際にちゃんと動いてやっていらっしゃいますよというものの実例があるので、非常にこれが手がかりといいますか、参考になるのではないかなと思いますということで挙げさせていただきました。

本当は、今日の推進会議のご説明ではこれだけでいいのではないかと思っていました。この次の資料は、分科会用に作ったものもあるので、逆にだんだん分からなくなってしまう可能性があるんですが、簡単な形で説明させていただきます。

21-1というものが右上に書かれた一元的情報発信のしくみ概観（案）というものです。こちらには、私が大きく考えているところの全てを一枚にまとめてしまったので、非常に情報が盛りだくさんになっております。

ポイントは何かといいますと、右上にアート＆カルチャーサイト「国立ビルボード」仮称というふうに書いてあるかと思います。これは別に立川ビルボードの国立版だよということが分かりやすくするために仮称、仮の名前として国立ビルボードとつけさせていただいたもので、正式名称になるわけではないということはあらかじめ御了承いただければと思います。また右側にSNS活用というのも書いてあるように、それをSNSを使って発信するイメージです。

これは表側で見えている部分ですが、その下のほうに黒い矢印がこのビルボードに向かって進んでいると思います。その下にマルチサイト+ドメインマッピング機能、記事管理・配信システム、英語でWordPress、全てのカテゴリー記事データベースと書いてありますが、ここは簡単に言いますと、ポータルサイトに記事を載せるときに、裏側の管理システムの上に記事を作り、そこに載せて、そうするとポータルサイト上にその記事が表示されるというのがウェブサイトの仕組み、ホームページの仕組みになります。

そのときに、普通はいろいろなホームページ、ポータルサイトのそれぞれに1個のシステムを使っているところが多いんです。そうすると、1個の場所で作った記事はそのサイトでしか表示されません。それで事足りる場合はそれでいいのですが、もっと工夫したほうが良いのではないかというのがこの案になります。左上にシティプロモーションサイト「くにたちNAV I」新装というふうに書いてありますが、このくにたちNAV Iというのは、既に15年ぐらいたっている国立市の観光とか商業情報寄り、お祭りとかイベント情報寄りで、ちょっとアート情報も載せているようなポータルサイトです。御存じない方はぜひ、後ほどくにたちNAV Iで検索していただければ出てきますが、既に地域情報をまとめている、ただ文化芸術技術情報は若干弱いサイトがございます。

ただ、既にあって、市内外の方々からそれなりに見られているサイトなんですね。そうしますと、国立ビルボード用の記事を国立ビルボードで記事を表示しているだけではもったいない、国立ビルボード用に作った記事がくにたちNAV Iでも見られるといいですよねという考え方です。

ちょっと下に、この絵の、ウェブサイトのイラストがあると思うんですけど、真下に総合誌の役割、国立ビルボードの下には専門誌の役割というふうに書いてあります。これは、月刊雑誌みたいなものをイメージしていただければいいんですけども、専門誌というのは文化芸術情報だけを扱った専門誌、総合誌は文化芸術情報も地域のお祭りのイベントや様々な情報も扱っている、そういういたるものだと思ってください。なので、くにたちNAV Iというのは、文化芸術情報も含めて地域の情報が見られる総合誌、国立ビルボードのほうは文化芸術情報だけを集めたものということになります。

多分、人数で言えば左側のくにたちNAV I のほうがたくさんの方が見るでしょう。文化芸術に興味ない人も見るでしょう。右側は、逆に文化芸術だけに興味があれば十分だという人はもしかしたら国立ビルボードだけを見るかもしれません。そうやって見る方の特性に応じて2つあればいいんですけども、従来は2つポータルサイトがあった場合、2つシステムを立ち上げて、それぞれに記事を載せなければ記事が見られませんでした。つまり二度手間、三度手間になってしまふところを、この下の記事管理・配信システムというのから2つの矢印が伸びているように、一つ記事を作りさえすれば、国立ビルボードにも、くにたちNAV I にも配信が1回ができるということを示しています。そこまで考えて一元的に情報発信をしたほうがいいのではないかというのが、この上半分のイメージです。

さらに、アーティストバンクというのが国立ビルボードのSNS活用の下あたりに青い四角で引っ張ってありますが、これも国立ビルボードの中にアーティスト情報を発信していけばいいのではないかということで、書かせていただいております。

あと下半分は、文化芸術推進会議よりももう少し広い話題になるんですけれども、この仕組みをつくることによって、商業情報やお祭りの情報など観光振興情報、福祉とか様々なサークルなどの地域活動、そして公民館や図書館、趣味の活動などの生涯学習なども、一元的に情報発信することで、一石三鳥、四鳥というのが下のイメージになります。

文化芸術推進会議の範囲を越えた話になりますが、そこまで考えた一元的情報発信の仕組みをつくることが、この国立市全体にとってメリットがあるのではないかということで提案した次第です。

一番下に、黒字に白抜きで市民ライターグループと書いてありますが、これは先ほどの立川ビルボードで市民ライターを募集して、インタビュー、取材をして、記事を作成して、ポータルサイトにアップしているということを、国立市でも同じような仕組みでやればいいのではないか、しかも文化芸術だけの市民ライターではなくて、地域活動に興味ある方、観光振興に興味ある方、生涯学習に興味ある方も含めて記事を作る、取材もして記事を書く市民ライターグループがいて、皆さんに記事を作っていただければいいのではないかということでご提案した全体図でございます。

私からは、一旦、以上にさせていただきます。

【宇治議長】 間瀬委員、ありがとうございました。

今回の会議では、今、御説明いただいた仕組みの大枠についての合意を図りまして、今後の分科会での実務的な議論につなげられると考えております。今、間瀬委員から御説明いただいた仕組みの部分について、委員の皆様方から御質問や御意見をいただければと存じております。

池田委員、音声のほうは聞こえていますでしょうか。ありがとうございます。

今の御説明で御意見とか御質問とかはございますでしょうか。

【池田委員】 今のところ理解できていると思います。

【宇治議長】 ありがとうございます。

それでは、高橋委員、何か御質問とか、御意見とかございますでしょうか。

【高橋委員】 内容的には理解しておりますし、立川ビルボードといういい、もう既に機能している事例がすぐ隣の町にありますので、それに倣った形で国立でも進めていくというのもいいアイデアだと思っていまして、ぜひ進めるべきだと思います。ただ名前は、ビルボードというと真似したようになりますので、何かいいものを考えられれば。

【間瀬委員】 もちろんです。

【宇治議長】 ありがとうございます。

仁平委員、ご意見ございますでしょうか。

【仁平委員】 私もとてもいいと思います。特にSNSの活用は必要と感じています。主体的に見に行くということがない場合、SNSで自然に流れてきた情報からこちらのほうに引っかかって、「何だろう」と興味を持って、開いて、広がっていくのではないかなど、可能性を感じました。

【宇治議長】 ありがとうございます。佐藤委員。

【佐藤委員】 私もすばらしいアイデアだと思います。その中で、先ほど御説明あったように、国立ビルボードとくにたちNAV Iを並行して記事が載せられるということなんんですけども、載せることによって、国立ビルボードの記事が、ある意味、100%くにたちNAV Iのほうに入ることになるかと思うんですね。そうしたときに、ちょっと仕組みが分からぬのですけども、くにたちNAV I 1個で、一元でいいんじゃないかなってところがちょっと考えられるかなというのが一つあります。

もう一つは、結構、これを管理するのは、技術も片手間では、多分できないと思うんですね。下のほうにライター、ライターさんは市民の方を募ってやってくれると思うんですけど、それなりにやっぱり専門家が必要で、そこら辺のリソースの問題もあるかなと思いました。

【宇治議長】 ありがとうございました。

間瀬委員のほうから、こちらについてご意見ございますでしょうか。

【間瀬委員】 そうですね。今、前半のくにたちNAV I一本だけでいいんじゃないか、総合のサイトだけがあればいいんじゃないかというご意見ですが、総合のサイトはたくさんの情報を扱うことになるので、どんどん新しい情報が下に消えていく恐れがあります。いろんなイベントが次々と掲載されますので、よく閲覧する人はそれでいいんですけども。

あと、デザインを変えることができるんです。同じ記事で情報は同じなんですが、立川ビルボードではちょっとアーティスティックというか、ポータルサイトのつくり自体もちょっとおしゃれにするととか。くにたちNAV Iのほうは、おしゃれじゃないけど、たくさん情報が入っているのを見やすくするとかというふうな見え方をばらけさせることもできるので、総合誌と専門誌の違いみたいなところがメリットもあるかなと。おっしゃるとおり、もう面倒くさいからくにたちNAV Iだけでいいんじゃないのという考え方もししかしたらあるかもしれません。ありがとうございます。

管理については、記事管理やライターさんのまとめ、記事の校正やチェックのような細かいことはやはり発生しております。私は観光協会の人間でもありますし、くにたちNAV Iというところを運営しているので、当然、その編集・管理の大変さもよく知っているんですが、それを下にちょっと書かせていただいたのは、各ジャンルにおいて、観光協会が担い、社協が担い、アーツカウンシルが担い、公民館が担うといった形で、記事ジャンルごとに管理体制がそれぞれ違う人がいて、もちろん記事の作成ルールは統一しておけば問題ないかと思っています。どこも自分のジャンルの情報をしっかりと市内外へ向けて発信したいと思っている主体だとは思うので、運営管理は大変かもしれないけれど、それに見合った成果が出るのではないかと思っています。

【佐藤委員】 それぞれ分担して。

【間瀬委員】 分担して、かつまとめて、それが、これまでだと公民館の情報は公民館のサイトだけに載っていたみたいな情報だったんです。それがくにたちNAV Iにも流れれば、同じ記事を作ったり管理する手間が、一つのサイトだけに載せていた記事がもっと多くの人に見られるということもあるので、そういう意味で、同じ運営管理をやるんだったらこういう仕組みの中でやったほうがいいのではないかなということになります。以上です。

【宇治議長】 ありがとうございます。砂連尾委員、ございますでしょうか。

【砂連尾委員】 おまとめいただきありがとうございました。あまりこういう記事にアクセスしない人間なので、恐らく見る人にとってはいいんだろうなと想像して、多分、情報を収集するという人にとっては非常に、特に今回、文化芸術に対して、ちゃんとやりながらも、ちゃんと国立のほうとも、両方アクセスできる形になっているというのは大変いいと思いました。

その上で、私自身も自分でホームページというものをやりながら、結局、なかなかそれを管理・維持していくのがなかなか大変で、この辺り、それは今後の話になってくるのかも、外注というのは、これ、やっぱり幾らか予算をつけていくというお話になるかなと思っています。

それと、あと、市民ライターグループというのも、やっぱりその文章の責任、文責みたいなものをどこまでちゃんとと考えているか。特に昨今、すごくSNSで自由に発信することが、かなりファクトチェックがちゃんとできているかどうか、もちろんそういう内容の記事じゃないのかもしれないんですけども、その辺りのいわゆるコンプライアンス的なことの管理なんかも含めて、より協議していくながら慎重につくっていくことが必要なんだろうなというふうに考えました。

この辺の市民ライターグループというのは、立川とか、あるいはそういうところではどういう人がやられているんでしょうか。

【間瀬委員】 そうしましたら、先ほどの参考として配りましたもの、ありますね。こちらのホチキス留めの3ページをめくっていただいて、立川の市民ライターの仕組みがどうなっているかといいますと、基本的にまず未経験オーケーというふうになっています。学生さん、主婦、シニアの方も大丈夫ですよ。

この大きな赤い2番で、真ん中の辺ですね、下のほうの。「取材やライティングなど未経験…。それでも大丈夫?」と書いてあるところの一番下の段落というか4行目を見ていただくと、「取材いただいた原稿も、プロの編集部により校正を致しますので、ぜひ安心してお気軽にご参加ください」ということなので、市民ライターの方が書いた記事がストレートにそのままポータルサイト上に載るわけではなく、一応、プロの編集部がチェックを入れるという過程は踏んでいるようです。

あと、外注という部分の話になりますが、3番のライター応募条件の下に支給経費というのが書いてあります。1記事に対して「ギフトカード2,000円分を進呈」と書いてありますが、この価格が妥当かどうかはさておいて、ゼロ円ではないというところはポイントかなと思います。

私は、くにPayという国立の地域通貨の形にすれば、地域経済への貢献が多少は発生するのではないかろうかというイメージで、ギフトカードよりは、国立の中でしか使えなくくにPayを、何円なのか今は決められませんが、お支払いするのがよろしいのではないかという考え方でございます。

【砂連尾委員】 どうもありがとうございます。

そうすると、このプロの編集部というのは、これはどういった方が担当されるというか、責任を持っていくというのは、この文化芸術推進会議がやるという認識でしょうか。

【間瀬委員】 あくまでこれは私の案ですので決定事項ではないんですが、今の御質問にお答えする形で言いますと、市民ライターグループの上に、発注側を編集部と便宜上書かせていただいております。文責は編集部にあると考えていただければいいかと思います。

そして、この編集部というのは、先ほどのご説明と重複しますが、カテゴリーごとにあっていいかと思っています。カテゴリーごとというのは、観光振興の記事であれば観光まちづくり協会が編集部、文責を担う。地域活動に関して言えば社協、社会福祉協議会、あるいはくにたち地域コラボさん。文

化芸術に関しては、まだ設置はされていませんがアーツカウンシル、これは推進会議とイコールではないと私は認識しておりますんですけど、アーツカウンシルという文化芸術を仕切る団体、最後に生涯学習に関しては公民館と。これは決まった話ではなくて私の理想を書いているだけの話なんんですけども、各カテゴリーごとに編集部が存在していて、プロの編集さんではなくて公務員の方でも、公民館の職員の方も、ふだん情報をホームページに上げていますので、当然、チェックをしているものですので、そういうチェック機能みたいなものは、この編集部の各団体がそれぞれ行うというイメージです。

【砂連尾委員】 どうもありがとうございました。理解しました。

【宇治議長】 ありがとうございました。門倉委員のほうからございますでしょうか。

【門倉委員】 資料を用意していただいてありがとうございました。

資料のほうを見させていただいて、大変イメージが湧いてきました。前回のお話からより理解が高まったかなと思います。

私も先ほどの佐藤委員や砂連尾委員と同じようなことを聞こうかなと思ったんですけど、管理運営について、今お話を聞いて安心したところでは、間瀬さんがくにたちNAV I のほうも関わってやられているということなので、一つ何か疑問だと思えば相談だとか質問できる方がいらっしゃるということで、そこはちょっと安心できるのかなと思いました。

私は、くにたちNAV I はときどき見て、お買物だとか、飲食だとか、そういうカテゴリー別に分かれていますが、そちらのほうに興味ある方はもちろん見ますし、どこかでリンクされているところがあれば、知らず知らずに文化芸術のところに触れることもできると思いますので、専門的な、ここで書いていただいている専門誌の役割だけだと、やっぱり興味のある方だけしか行かないで、取りに行かなくとも視覚的に入ってくるもののほうが、さらに奥に入ろうかなという気にもなるかなと思うので、こことリンクして進めるという、このつくり方には賛同できると思っています。

また、さっき砂連尾委員もおっしゃっていましたけど、コスト面など現実的にどうなのかというのは、ここでもんでいく中で、生涯学習の方もいらっしゃるので、予算の取り方だとかということも相談もできますし、より実のあるものというか、立川と国立はちょっと規模が違いますけども、後発的なものになるので立川よりもいいものをつくりたいと思いながら、これを参考にしながら進めていただくのは、私、すごく大賛成のところです。

【宇治議長】 ありがとうございました。続きまして、森口委員からお願ひいたします。

【森口委員】 立川ビルボードを知らなかったので、すてきなサイトがあるんだなと思って、国立のこともカバーされていて、いいなと思いました。

基本的な質問ですけど、もしこのWordPressのマルチサイトを利用したら、くにたちNAV I と仮称国立ビルボードは全く同じになるんですか。それとも、記事にオン、オフの機能があって、これはくにたちNAV I には載せるけどビルボードには載せないということができるんですか。

【間瀬委員】 できます。それは記事作成管理画面でチェックを入れたり入れないみたいな形にすることによって、くにたちNAV I だけに載せる記事、あるいは国立ビルボードだけに載せる記事、両方に載せる記事みたいことというのは、システム上は可能というふうに考えています。

【森口委員】 すばらしいですね。2つに限らず、3つとか4つにも増やせるってことですね。例えば、今、公民館だよりに載っている記事をここにも載せるといったこともできるんでしょうか。

【間瀬委員】 できます。ただちょっと先ほどと違うのが、文化芸術の国立ビルボードのようにま

だ存在していないもののほうがゼロから立ち上げるのはやりやすいです。でも、公民館は既に市役所のホームページの中に公民館ページがあって、そこで情報発信をされています。ということは、せっかくこれまでやってきたことを1回取りやめて移行するというところが、どう受け止められるかということもあります。より便利になるし、より多くの人に見られるという仕組みなんだけども、既にやっているからそれをやり続けなきやいけないとなると、作業が二重に発生してしまう。

【森口委員】 そこに完全に載っちゃうと楽だけど。

【間瀬委員】 そうですね。シフトコストとよく言われますが、今まで使っていた形態のほうが使い勝手がいいから、新しい形態のほうが便利なんだろうけど今までの形態でいいというような人間の心理はあると考えられるので、そういうシフトコストが既にそれなりに情報発信をされている方々にとってはどう受け止められるかという課題があるのかなと考えます。だから、システム上はできるという言い方になります。

【森口委員】 なるほど。分かりました。だから、可能性としては、みんながここに載つかってくることもできる。あと、動画もこれは載るんですか。

【間瀬委員】 動画が載るというのは、基本的に動画というのは、よくやるのは、Y o u T u b e 上にチャンネルを持っていて、そこに動画をアップロードします。その動画を置くことができるんですね、ホームページ上に。そういう意味では、動画を載せることはできるということです。

【森口委員】 分かりました。だから、このシステムとしてはとてもフレキシブルで、広がっていく可能性があるということが分かったので、ますますこれでいいんじゃないかなと思いました。

【宇治議長】 ありがとうございました。長島委員から。

【長島委員】 本当に分かりやすくて、とてもすてきなことだと思いました。ただ1点、市民の中にはお年寄りの方もいらっしゃるわけですよね。私自身もアナログの人間なのですが、よくお年の方から「携帯電話を使うこと一つにしても大変なんだよね」ということを聞きます。だから、市民全員に還元するということはできないかもしないけれども、お年の方は、国立の広報誌のような昔ながらの文字で情報を得ることを楽しみにしている場合も多いのではないでしょうか。

サイトの立ち上げには賛成ですが、それを始めるに当たって、お年の方にもよく分かるような説明が事前にあった方が良いのではないかと思う。若い方だけでなく高齢者の方も多いと思いますので、そのことは頭の片隅に入れておいて始めて頂けると、国立市民全てにとってすてきなサイトになるのかなというふうに、今のお話を聞きながら思いました。

【間瀬委員】 文化芸術情報に限って言えば、デジタル情報だけではなくて、当然そういったところに配慮した紙の媒体を、財団さんも「オアシス」を発行していたり、公民館もホームページだけではなくて公民館だよりを出していたりとか、今後も紙は続くのではないかと思います。

あとは、サイトそのものに関しては、アクセシビリティと言われますが、文字を大きくする機能などがあれば良いのかと思います。

【長島委員】 そうですね。

【間瀬委員】 あるいは、立川ビルボードさんは、右上見てもらうと、E n g l i s h 、 J a p a n e s e ってあるように、英語の記事、翻訳した記事を載せているという形で、外国の方でも大丈夫ですか、市役所のホームページだと視覚障害の方のための読み上げ機能があったり、予算次第だと思いますが、アクセシビリティをできる限り高める配慮は必要なんじゃないかなと思いました。

【長島委員】 ありがとうございます。ご高齢の方も興味はあるんですよ。ただ、アクセスの仕方が分からぬということをよく耳にするものですから。そういう意味で、同じ市民としては、そういうこともちよつと頭の中に入れていただいて、みなで共有できる部分というのがいっぱいあつたらさらに町がよくなるのかなと思いました。

【宇治議長】 どうぞ、仁平委員。

【仁平委員】 長島副議長に付け足します。情報共有なのですが、今後、小学校、中学校で「くにたち学」というのが始まるそうです。恐らく9年間を通して国立の魅力や、伝統文化などを学んでいく学習が始まります。今はまだスタートしていなくて詳細が分からぬのですが、恐らくこのサイトに子供たちからのアクセスが増えると思います。そこで、子供たちにも分かりやすいような内容にできたらいいなと思いました。

【宇治議長】 ありがとうございました。事業をやっているほうの身からして、私どもがやっている立川の美術館があるんですけども。毎回企画展のたびに立川ビルボードさんの市民ライターの方が取材に来ていただいて、記事を必ず載せていただいて大変助かっておりますし、無料でそういった宣伝効果があるので、やっている事業者としてもかなりメリットがある企画だと思いますので、ぜひ進めていただきたいなというのは個人的にも思いました。

皆様、御意見いただきましてありがとうございました。

それでは、基本的にはこの概要案どおりとしまして、また、本日出された意見も踏まえまして、具体的な検討を分科会に委ねるということにしたいと思います。

続きまして、その分科会について、概要案を事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 お手元の資料21-2に沿って御説明をさせていただきます。今、意見交換いただきました文化芸術情報の一元的な発信に向けた分科会ですが、前回の会議で分科会を設けるというところまでは御議論いただいたおりました。今回はその具体的な内容というところで、間瀬委員とも御相談した上で、今回、案としてまとめさせていただいたものが資料21-2になってございます。

まず1番目の概要のところです。今、御議論いただいたように、文化芸術情報の一元的な発信に向けて、ウェブサイト、ポータルサイトの構築に関する具体的な内容や、その方法論などをご議論いただいて案をまとめることが役割であるとさせていただきました。

開催時期と分科会の期間につきましては、現状では令和7年度中というふうに考えております。

検討の内容につきましては、今、ご議論いただいたところにも関わりますが、文化芸術情報の一元的な発信に向けたサイトに関する技術的な検討というところが1点目、それからこのサイトのコンテンツについての検討、さらにお話にも出ましたようなサイトの運用方法、こうしたことの検討というところを考えてございます。

それから、分科会のメンバーですけれども、文化芸術推進会議の委員の皆様の中から御希望のあつた方に三、四名ほどお入りいただいて、これに加えて、メンバーというわけではないんですけども、ウェブのプログラムの専門家であるとか、モデルとして御提示をいただきました立川ビルボードの関係の方、それから、システムの運用ということですので、必要に応じて府内の情報システムの部署の職員などの出席を依頼して、こちらの分科会への意見や助言をいただくことを想定しております。

ただ、その下の5番目のその他のところですが、申し訳ございません、分科会のメンバーには予算がついてございませんで、無報酬という形になってしまいます。その点も踏まえた形でメンバーの選定ですか、進め方も考えていく必要があるかなと思っております。

4番目の項目の分科会の進め方の案でございますけれども、まず、文化芸術推進会議が今年度あと2回、第2回と第3回ということで予定しておりますが、そちらとリンクする形で、分科会のほうも可能であれば早速、今月9月から第1回目のスタート切りたいと思っておりまして、まず内容としては、立川ビルボードさんの先行事例がございますので、こちらへのヒアリングですとか、場合によってはお越しいただいて御意見や状況を確認をしていくというところからかと思っております。

それから、予算のお話も先ほど出ましたけれども、予算立案の時期を鑑みますと10月ぐらいにはどの程度の予算なのかということの見積り微取も必要になってくるかと思っております。

この9月、10月の第1回、第2回と並行しまして、やはりコンテンツの検討も進める必要があるかと思いますので、第3回ということで書かせていただきましたけれども、第1回から3回までかけて、サイトのコンテンツというところも考えていく必要があるかなと思います。

おおむね9、10、11と3回程度、分科会を行いまして、その結果を次回の文化芸術推進会議に中間報告という形で上げてはいかがかと思っております。分科会でまとめた内容について文化芸術推進会議で御意見をいただき、その修正案を1月、2月にまとめ、最後、年度ぎりぎりになってしまふんですけども、3月に最終報告ということでできるといいかなと考えております。

その他の事項といたしまして、庁内等との調整というのも随時入ってくるかというふうに事務局では考えております。

現時点での分科会のほうの概要につきましては以上となります。

**【宇治議長】** ありがとうございました。今、説明あったとおり、こちらの分科会につきましては、早速、今月より始動するに当たりまして、今回の会議で、説明のありました案について御議論いただければと思います。また、分科会のメンバーにつきましても、もし案のとおり進めのんであれば、今回、数名の方に立候補していただく形になるかと思います。今の説明にありました概要はあくまで案という形になりますので、この分科会に望むことなども含めまして御意見を頂戴できればと思います。  
どなたか御意見ございましたら、いかがでございますでしょうか。

**【砂連尾委員】** 個人的なことを言うと、ちょっと私、秋以降が学生の卒業制作で非常に忙しくなるので、ちょっと私自身の参加は厳しいかなと思っております。

**【宇治議長】** ありがとうございました。やはり皆様、お忙しい中でのこととなりますし、無報酬ということにもなりますので、ボランティアというような形になります。そんな中で、ぜひメンバーのほうに立候補をされるという方がいらっしゃいましたら、ぜひこの場で御発言をいただければと思いますがいかがでございますでしょうか。

間瀬委員、お願ひします。

**【間瀬委員】** 今、お話しているのは、まず、この概要案で行くのかどうかというところの審議なのかなというふうには伺っていました。これが、これで行こうとなったときに、実際、この三、四名の希望者が出るんだろうかという話だと思っています。もしこの案で行くということであれば、当然、私は分科会に出ますとは前から言っているので、私自身は立候補といいますか、この中の1名としては参加させていただきますということはお伝えします。今は、そもそもこの仕組みでいいのかどうかということの、検討かなというふうに思っております。

例え私は、前回の議事録にも載っていますが、そのときそのとき行きたい方が来ればいいのではないかなと思っていました。ただ、市の職員の方とこの案を検討して、これで希望者がいるんであれば問題ないかなと思った上でそうしましたので、その都度、この回は興味があるから、コンテンツの

検討だったらちょっと分かるかもしないから行こうかなとかというふうでもいいのではないかなども思っていたりするので、もし希望者があまりにも出なければそういうやり方もあるという点でのこの案に対する意見になっています。

【宇治議長】 ありがとうございました。砂連尾委員。

【砂連尾委員】 すみません。砂連尾です。

この分科会のメンバーというのは、かなり先ほども長島委員が言いましたように、すごく得意、不得意というのがあるんですけど、この分科会のメンバーが、果たしてどこまでコンテンツやいろんなことを考えていくメンバーとして適しているのかということは、いま一度、検討したほうがいいかな。

そういう中では、例えば委員の中から、私はあれだけ、知り合いでこういう詳しい人が市民でいるよというようなことも含めた内容の、間瀬委員を中心とした形でつくっていくということも方法としてはあっていいんじゃないかなということはあります。

【宇治議長】 ありがとうございました。仁平委員。

【仁平委員】 私は、個人的には参加したいんですけど、何せ知識がなくて、なので、まず質問なんですかけど、1つ目の質問が、こちらで発言した内容は録音される、または議事録のような形になるのかなということと、全然多分、変なことを言っちゃうと思うので、なので、でも、個人的にはとても自分がすごく興味のある内容なので参加させていただきたいなというふうに思っています。

【宇治議長】 ありがとうございました。

議事録の件はいかがでしょうか。

【事務局】 議事録につきましては、議論した内容を推進会議に報告することになりますので、要点記録は必要と思っていますが、推進会議のように公開ということは、現状考えておりません。

【宇治議長】 ありがとうございました。まず、順番が前後してます申し訳なかったんですけど、最初に、今、御提案いただいた分科会の案でございます。こちらの案で、まず進めさせていただくというので御異議はございませんでしょうか。

あと、メンバーについては様々な御意見がございますので、御希望者、当然ございますので、その辺はどうしましょう、この場でお決めした方がよろしいでしょうか。

【事務局】 事務局としましては、もしこの場で意向といいますか、今、間瀬委員と仁平委員のほうからお声を頂戴しましたけれども、もしやつていただけそうという委員の方がいらっしゃいましたら、ぜひお声を上げていただければと思っておりまして、その皆様には、この後早速第1回の分科会の日程調整をさせていただければと思っております。

9月からスタートというスケジュール感で考えておりますので、後日やっぱり考え直してやってみたいという方がいらっしゃってももちろん大歓迎ですが、もしお気持ちがあるようでしたらこの場でおっしゃつていただけると、スケジュール調整なども円滑になるかと考えております。

【宇治議長】 ありがとうございました。今、間瀬委員、仁平委員ということで御意向をいただきましたが、ほかにどなたか、もし立候補される方がいらっしゃれば。

【高橋委員】 砂連尾さんがおっしゃったみたいに、得意な人とか、知り合いとか、そういう方もできればいいんじゃないかというのもたしかにあると思うんですけど、やっぱり核になる人間がやっぱりこの委員会からやっぱり3人か4人ぐらいいて、それを立川ビルボードとか、いろんな人が、経験者を呼んでくるとかということを、同じレベルで得意な方がいれば招き入れればいいのかなと考えていますが、私自身はウェブとかそんなに得意ではないんですけども、何か進めていかないかと、何

もせずに終わってしまうのも残念な感じがしますので、微力ながらでも力になれると思うのでやってみたい気持ちはございます。

【宇治議長】 ありがとうございます。そうしましたら、3名の方に、今、御立候補をいただきましたので、もしましてこの議題については参加したいとかであれば、間瀬委員からお話がありましたけど、参加することは全然問題ないと思いますので、その都度、参加していただくような形の案で進めさせていただくということでおろしいでしょうか。

池田委員、聞こえていますでしょうか。いかがでございますでしょうか、今のお話の流れは。

【池田委員】 ごみ出しや防災などの情報は、くにたちNAV Iには載っているものでしょうか。

【宇治議長】 間瀬委員のほう、お分かりになりますでしょうか。

【間瀬委員】 まず、そういう市役所の業務だろうというような範囲の情報というのは、当然、国立市役所のホームページで発信しているものになります。くにたちNAV Iというのは、一応、国立市オフィシャル観光サイトという肩書がついているように、基本的には観光まちづくり情報を市内外に向けて発信しています。観光情報というと、お店の情報だったり、お祭り、イベントごとの情報、そのイベントの中にアート系のイベントがあったり、アートギャラリーの情報があったりというようなこともあります。ですので、ごみとか防災の情報というのは、原則は観光まちづくりの情報ではないので流していないです。今後も、くにたちNAV Iで流す必要はないかなと考えております。

ただ、市のほうからより多くの人たちに伝えてほしいのでこういう情報載せてくださいと言われることはたまにあります。そういうときは、当然、中身次第では載せています。一応、このくにたちNAV Iというのは、国立市から観光協会に委託事業でやっているものですから、最後は国立市がどういうものを、情報を発信したいのかということの最終権限というんですかね、最終責任は国立市になっておりますが、割と柔軟に観光まちづくり情報を流しているサイトとなっております。

お答えになっているでしょうか。

【宇治議長】 池田委員、お願ひいたします。

【池田委員】 海外の例なども見ると、芸術文化にかかわりを持ちたいけれど持てない人たち、例えば子育て中の世代などのための情報もそうしたサイトに載っているので、今お訊ねしたところになります。

【宇治議長】 ありがとうございます。それでは、今、お話がありましたとおり様々な御意見ございましたが、それを踏まえて、現状、まず分科会の案と、あと委員のメンバーの方と方向性を、今、決めましたので、この案で進めさせていただきたいと思います。

【事務局】 事務局から補足させていただきます。

間瀬委員、仁平委員、高橋委員、どうも本当にありがとうございます。よろしくお願ひいたします。

まず、3人の御予定を伺う中で、今後、分科会の日程を決めさせていただければと思います。また間瀬委員から、都度参加でもいいのではという御意見もいただきましたので、分科会の日程が決まった段階で皆様にも日程をお伝えできればと思っております。

また、その会の必要に応じて、ウェブプログラムの専門家であったり、立川ビルボードの関係者ですとか、ボランティアでどこまで来ていただけるかというところがありますけれども、お声がけいたしますと同時に、先ほど砂連尾委員から知り合いの専門家というところのお話もございましたので、例えばこういった会に御協力、何か知見を与えてくれるような、出席していただけるような方の情報がありましたら、併せて事務局のほうまで情報提供いただければと思っております。

【宇治議長】 ありがとうございました。

【砂連尾委員】 これから立川ビルボードさんなどに、ボランティアで来てもらうと考えていらっしゃるんですか。そういう外部の方には、ある程度、そういうことを保障しないと来てくれないんじゃないかなという、そういう心配をしたのですが、その辺りいかがでしょう。

【事務局】 御意見ありがとうございます。我々としてもきちんと支払いする中で来ていただきたかったというのは本音のところなんですけれども、何分予算がないものについてお支払いができないというところで御協力を依頼したいなというふうに思っております。

【砂連尾委員】 分かりました。その辺は、でも、今後やっぱり専門的な、それは多分、自分の職業的なものもありますが、専門性を何かある種やっていた人に対するやっぱり敬意というのは、やはり市の職員の方々はそういうことって非常に問われると思うんで、特にこういう会だからこそ、余計そういう知見を持っている人に対するまずは敬意の形が、今、取りあえずお金という形にしかならないと思うんですけども、結局、この国立でこういうことに対しても、やっぱりそういうボランティア的なことでしか扱えていないということは非常に寂しいなと感じましたので、そのことはちょっと今後に向けた検討事項にしていただけたらというふうに感じました。

【宇治議長】 ありがとうございました。

それでは、今のお話は御意見として頂戴させていただきまして、それでは次第3のその他でございますが、各委員の皆様より近況や情報提供など、この場で共有したいことなどございますでしょうか。佐藤委員、よろしくお願ひします。

【佐藤委員】 ウェブサイトの話とは全然別なんですが、たまたま私の散髪の床屋さんが谷保のお囃子の篠笛のリーダーをやってまして、それで、ちょっといろいろお話をしたんですけども、困っているのがお金の話なんですね。

谷保のお囃子というのは、種類で言うと府中のお囃子と同じ種類に属しているんですけど、府中市のはうは無形文化財になって、市からもかなり潤沢に頂いているらしいんですけども、こちらは無形文化財じゃないので、指定されていなくて、それで、18歳以上は会費を取って、さらにそれでも足りないので、町内会とか、個人の寄附に依存して何とかやっているということで、できれば無形文化財に国立もしてほしいなというのはあります。

【宇治議長】 ありがとうございました。門倉委員とか、今のお話で何かございますか。

【門倉委員】 無形文化財に指定するとかという話になると、行政のお話になるのが一つあると思うんですけど、言えることは、助成金の制度というものが財団のほうにも実はあります、毎年申請がある中では助成としてお渡しして、伝統を守っていただくという制度があります。

なので、金額には限度はありますけども、国立市の文化芸術を守っていくということでやっています。その辺の助成金の制度についても、別個でちょっと御案内もさせていただければなと思います。

【佐藤委員】 国立市のお囃子の団体全体としてという感じですよね。五つか六つぐらいあると思うんですけど。

【門倉委員】 そうなんですよね。団体というよりも、活動に対してですよね。保存活動に大してということでの助成金の交付ということで申請いただいていることになりますね。

年間でも限られた予算があって、年3回ぐらい審査会というのがあるんですけど、活動を知つていただくいい機会にもなるのかなと思いますし、ぜひそういうことであればエントリーしていただければと思います。情報はしっかり提供させていただければと思います。

【佐藤委員】 分かりました。お願ひします。

【高橋委員】 今のお囃子の件ですけども、東とか谷保とか、幾つか分かれていますよね。その一つの集合体のような組織があるのでしょうか。

【佐藤委員】 私もちょっと詳しくは分からないですけど。

【高橋委員】 よく分からないですけども、どこかだけを助成するとかって、そういう形には、多分、ならないですよね。

【佐藤委員】 そうかもしれません。でも、私が聞いた話だと、山車を入れる小屋も今、老朽化が進んでいてお金も要るし、あとは練習場所ですか。私の知っている人は、谷保天満宮でやっているのですが、他の地区は練習場所とか、どうしているのか。

【高橋委員】 そういうのが、みんなで一つの組織みたいなのをつくって、まとめて助成を申請するという形になればいいんじゃないかなと思います。どこも大変なんだと思います。

【宇治議長】 よろしいでしょうか。ありがとうございました。ほかに何か、長島委員。

【長島委員】 私は大丈夫です。

【宇治議長】 大丈夫ですか。国立音大の100周年の関係ではいかがですか。

【長島委員】 ありがとうございます。国立音楽大学は創立当時は国立市にあったのですけれど、学生が増え、学校が大きくなつた時期に立川市の玉川上水に移転しました。附属幼稚園から高校まではまだ国立市にあります。来年は創立100年ということで、100周年の記念行事は大々的に行うべく準備が進んでいます。

その中で、本学楽器学資料館の周年事業として、新校舎を建てた時に伐採したシンボルツリーを一部使用して「くにおんフルティピアノ」という楽器を作りました。その楽器のお披露目コンサートが今年の4月に開催されましたが、その時に、その楽器の伴奏で歌わせていただきました。それ以外にも様々な100周年関係のイベントがあり、大学でも開かれておりますので、もし御興味があれば玉川上水のほうにもぜひ。

【宇治議長】 ほかに何か。どうですか、高橋委員。

【高橋委員】 全く余談になるんですけど、多分、二、三週間前にテレビ番組の新美の巨人で、国立の三角屋根の駅舎の話をやつたみたいですが、国立の町の成り立ちや歴史的なところから掘り起こして紹介していて、僕も、自分でも知らなかつたような、あ、そうだったんだといいい番組でした。何かで御覧になれたら、ぜひ見ていただくと、すごくいい番組だなと思って勉強になりました。

【宇治議長】 事務局から何か補足がございますでしょうか。

【事務局】 新美の巨人、御覧いただきましてありがとうございます。市も資料提供など協力をさせていただいておりました。私も番組を拝見しましたが、国立市で新書を何冊か出していまして、新書の中で旧国立駅舎を取り上げた本が660円で販売をしております。そちらはより深く内容が分かるものになっておりますので、もし御興味がありましたらご覧いただければと思っております。

【宇治議長】 ありがとうございました。砂連尾委員、すみません、どうぞ。

【砂連尾委員】 またこれも宣伝になるんですけども、11月2日、3日に、芸小ホールで多和田葉子さんの「さくら の その にっぽん」という演劇公演があるんですけども、私も関わっていますので、お時間がある方はぜひ。

【森口委員】 行きます。

【砂連尾委員】 ぜひいらしてください。それこそ、そういうのを仮称ビルボードさんなんかに取

り上げてもらえると。国立出身で世界的に非常に活躍されている多和田葉子さんの作品で、もうずっとやられている川口智子さんという方が演出に関わられていますんで、ぜひお時間がありましたら、来ていただけたらと思っております。

【宇治議長】 ありがとうございます。ほかは何か大丈夫でしょうか。よろしいですか。

それでは、最後に事務局から連絡事項ということで、事務局からの連絡事項をお願いいたします。

【事務局】 事務局でございます。

それでは、今後の部会、推進会議の開催についてでございますが、後日、なるべく早めに日程調整の御相談をさせていただければと思っております。

また、分科会のメンバーで立候補いただいたお三方の委員の皆様方には、この後、御予定をお伺いできればと思っておりますので、少々お残りいただいて、お時間をいただければと思います。

あと、その他の本日の議題に関しましてお気づきの点ですとか、後日でも御意見等、思い出されたこと、思いつかれたことございましたら、事務局まで隨時お伝えいただければと思います。

引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。

【宇治議長】 間瀬委員。

【間瀬委員】 すみません、ちょっとその他の話に戻ってしまいますが、先ほどの国立音大さん100周年が2026年ですよね。旧国立駅舎の話もありましたが、国立駅開業、来年が100周年ということで、100周年イベントを市として、観光協会も含めて実施する予定です。100周年実行委員会が動いてやっています。

また事務局から報告があるかなと思ったんですが、Kunitachi Art Centerの情報はどうなのでしょうか。

【事務局】 本日、確定版のパンフレットがお配りできなかつたのですが、間瀬委員からかえって御紹介いただいて申し訳ありません。ありがとうございます。

Kunitachi Art Centerという、例年やっているアートイベントなんですが、こちらが10月4日の土曜日から19日の日曜日までを開期としまして開催されます。市内にありますギャラリー・アトリエにアーティストの作品を展示して、市内に点在するこうしたスペースを巡るというイベントになっておりまして、例年、大勢の方に国立を訪れていただくきっかけにもなっています。今年度も、一般社団法人ACKTが企画を主に行いまして、東京都やアーツカウンシル東京、国立市も共催で行っています。

まだ企画段階の内容もありますので、明確には全てお伝えできないところもあるんですけれども、今、申し上げたようなギャラリー・アトリエを巡るという部分に加えて、先日、Kunitachi

Art Center企画ということで、開期に先立ちまして、国立第三小学校で仁平先生にも御一緒に企画いただきまして、版画のワークショップがございました。こちらは版画家の方に来ていただきまして、版画のワークショップをお子さんたち対象に行いまして、出来上がった作品を開期中に展示する予定です。

仁平先生、もしよろしければワークショップの御様子などについて、少し御紹介いただいてもよろしいですか。急にすみません。

【仁平委員】 実際に活躍されている木版画作家さんに学校に来ていただきました。子供たちに作家さんの本物の作品を、目の前で生で紹介してくださったことや、実際に木版画を教えていただき、体験できたことで、子供たちは本当に充実した時間を過ごすことができました。後日談ですが、今、

ちょうどその作家さんが長野県立美術館で作品を展示されてところに、ある児童が実際に見に行ったと報告がありました。「すごく感動した」と言っていました。体験したことがきっかけとなって世界が広がっていくのだなということを実感しました。来ていただいてよかったです。

ありがとうございました。

【事務局】 約30人のお子さんの御参加をいただいていたところです。出来上がった作品に関しましては、ブックカバーの形を取った版画作品になります。こちらはs o k oという展示スペースの一つで展示することになります。また、市報の1、2面にもK u n i t a c h i A r t C e n t e rの予告が載る予定ですので、そちらもぜひ御覧いただければと思います。

【宇治議長】 よろしいですか。ありがとうございました。

本日、予定しておりました議事は以上で終了でございます。

そのほか、何か御意見等ございますでしょうか。

それでは、これをもちまして第21回文化芸術推進会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

——了——